

第5回子どものメンタルケア事例検討会

Q&A～江川先生、杉本先生に聞いてみよう！

「第5回子どものメンタルケア事例検討会」では、参加者の皆さまから事前にいただいた質問に、江川先生、杉本先生にお答えいただきました。質問のテーマはこれまでの事例検討会で取り上げた内容としました。

- 1 不登校に関すること
- 2 暴力に関すること
- 3 自傷行為に関すること
- 4 その他

【参考】過去の事例検討会 講義資料

<https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/shougaifukushi/niigata-kodomono-menntarukea-netowarku.html>

1 不登校に関すること①

○ 基本的な対応のポイント

- ・不登校かな？と感じた時の初期対応は？
- ・子どもを信じて待つ姿勢で良いの？
- ・どこに繋がれば良い？(医療機関、相談機関等)
- ・支援する上で大事なことは？

江川先生

・周りからみると不登校が問題のはじまりに見えても、子どもの側の視点から見ると、試行錯誤の末の末期ということも多い。普段から生徒の様子を学校側がモニターしている、両親が子どもとの良好な関係性を築く(風通しを良くしておくこと)が理想的と思う。

杉本先生

【参考】第2回事例検討会 講義資料

・他児との関係でうまくいってないということがないか、先生との関係で何かうまくいってないことがないか、学習の遅れがないか、発達障害の子ども、特に自閉スペクトラム症の場合、過敏性(うるさいのがダメ、人が大勢いるのがダメ等)に関わるポイントがないか、この4点をまずスクリーニングする。
・学校の中で、この4つをスクリーニングし、1つ1つ引っかかっているポイントを見つけて問題が解決してから、登校刺激を行うと言う順番で対応する。

1 不登校に関すること①

○ 基本的な対応のポイント

- ・不登校かな？と感じた時の初期対応は？
- ・子どもを信じて待つ姿勢で良いの？
- ・どこに繋がれば良い？(医療機関、相談機関等)
- ・支援する上で大事なことは？

江川先生

・学校を欠席することに対して、子どもに葛藤があるかどうかの一つの重要なポイント。行きたいのに行けないという場合、時間を置いて待つという対応も機能しうる。

・葛藤のない子どもの場合は(特に ASD 特性の強い子どもに多いかもしれない)、これでいいんだという解釈となつて、堂々と休むようになることがある。どうせ行けないのなら、その方が良いという考え方もあるが、学校に我慢して行くことが、本人の将来に必要なかどうか、そのメリットが勝るかどうかについてはじっくりと評価する必要はある。

1 不登校に関すること①

○ 基本的な対応のポイント

- ・不登校かな？と感じた時の初期対応は？
- ・子どもを信じて待つ姿勢で良いの？
- ・どこに繋がれば良い？(医療機関、相談機関等)
- ・支援する上で大事なことは？

江川先生

・県立教育センターや新潟市の教育支援センターなど。
・発達特性が関連していれば発達障害者支援センターRISE や JOIN など。
・医療機関で言えば、まだ十分とは言えないが、児童年齢対応のメンタルクリニックもある。

杉本先生

・学校で身近なのはスクールカウンセラー。
・虐待の問題が絡んでいる場合には児童相談所や要保護児童対策地域協議会など。
・精神疾患がもしかしてあるかということであれば、保健所や地域の保健師などにも相談するリソース(資源)がある。

1 不登校に関すること①

○ 基本的な対応のポイント

- ・不登校かな？と感じた時の初期対応は？
- ・子どもを信じて待つ姿勢で良いの？
- ・どこに繋がれば良い？(医療機関、相談機関等)
- ・支援する上で大事なことは？

江川
先生

・不登校の始まりの時期には、学校に行くのが嫌だと繰り返して親子関係がぎくしゃくすることがある。学校に行くことは重要ではあるが、親子関係を崩してまで取り組む価値はないだろうと思う。子どもがこころを閉ざす前にそういった対応はやめて下さいとお願いしている。

・決まった期間ではないが(目安としては2週間ほど)、促しても行けないのであればそのやり方は効果的ではないので、やり方を変えていく必要がある。

杉本
先生

・何か一つのやり方で、どのケースにも全部当てはまるというのはなかなか難しい。原因をしっかりと見極める、見立てをしっかりとやるということが大事で、見立てに基づいて、この子どもの場合の原因はこういうことがあるからこういう対策をしようというような対応が必要。

1 不登校に関すること②

○ 本人への対応

- ・本人が「自分のやりたいことしかやりたくない」と言う場合どう対応すると良い？
- ・本人を自由に活動させて良い？それともある程度の枠組みが必要？
- ・放課後や学校以外の場(公園、放デイ、グラウンドなど)には出かけられる場合は？
- ・小中の児童の場合、学校以外の選択肢をどう提示する？

江川
先生

・本人がやりたいことしかやりたくないという場合、自由に活動させて良いかということについて、目的をはっきりさせることが重要。例えば勉強に関して言うと、発達特性の強い子どもは、周りがやってくるからやらなきゃとか、低い点数を取るとかこ悪いからというような理由は勉強するモチベーションにはなりにくい。

・学校の勉強を行うことによって、その後何につながっていくのか、何に役に立つのかというのはある程度ははっきりさせるべきかと思う。

・やりたくないことが本人と周囲が合意した目的にかなったものであれば、やりたくなくても、あなたにとってはこういう理由でやる価値があるというふうに、説得していけると良い。合理的に説明すると特に ASD の子どもは納得してくれることもよく経験する。

・途中で変わっても良いので、将来やりたいこと、やれそうなことについて早くから話し合っ設定する、仮設定することは重要。

杉本
先生

・支援をする時に、目標の共有というのがすごく大事。あなたはこれがやりたいから、これを今頑張ってるんですよね。そのために助けますよという、その筋道であれば、支援者がこうしてみれば、ああしてみればと言うのは、助けてくれているというふうに、子どもの目には映る。

・例えば子どもがゲームやりたいといった時に、目標の共有ができていない人がこうしてみれば、ああしてみればと言うと、俺は今ゲームをやりたいのに邪魔してくる、この人は邪魔者だということで、助けようとしていても邪魔者扱いされてしまう。目標の共有ができていないかできていないかで、助けてくれる人になるか邪魔物になるか180度違う。

・自分のやりたいことしかやりたくないという子どもは、他の大人との関係性がどうかというところを見てもらいたい。親との関係性においても、全ての大人との関係性においても自分のやりたいことしかやりたくないという場合、家庭での関わりから修正しなければいけない場合もあるので、遅かれ早かれ医療機関に受診が必要となり、最終的には入院しなくてははいけなくなるケースもある。

・他の場所には行けて学校だけ行けないという場合は、さきほど話した4つのスクリーニングのポイントのどこかに引っかかりがあるということがほとんどなので、しっかりスクリーニングして対策すると学校に来られるようになること多いので、ポイントを見つけてもらうのがよい。

・学校以外の選択肢については、教育センター、フリースクール、通級指導教室、不登校児童向けの学習塾などのサポートがある。

1 不登校に関すること③

○ メンタル疾患への対応

- ・メンタル疾患に気づくためのポイントは？
- ・病気に発展しないような関わり方は？
- ・医療機関への受診が必要か、どう判断すればよい？
- ・受診先は？（小児科、精神科等）

杉本
先生

・精神科疾患の基礎知識、どういう病気があるか、うつ病、双極性障害、統合失調症、社交不安症、強迫症、パニック症などよくある精神疾患について、インターネット等で少し知識を得ておくと、もしかしてこの子こういうのがあるのではないかと気づいていただくことができるかと思う。

・病気に発展しないような関わり方は、いろんな病気があり、一概に言えない。ケースバイケースで専門家に相談しながらというのがいいかと思う。

・受診が必要かどうかは、まず一番身近な専門家であるスクールカウンセラーの先生に、病院受診が必要かどうかも含めて見てもらうのがいいと思う。子どもがスクールカウンセラーの先生を拒否する場合や、面談してもうまくいかないという場合には、病院に行ってみますかということで説明するのがいいかと思う。

・受診先について、県のホームページに発達障害の診療等を行う医療機関について掲載されている。不登校と発達障害は問題の主題は違うが、それが参考になるかと思う。

1 不登校に関すること④

○ 連携について

- ・学校、福祉、医療等の連携はどうするとよい？
- ・学校医との連携は？

杉本
先生

・個人的には、A4 用紙 1 枚くらいに、これまでのその子どもの経緯、子どもの良いところや悪いところ、困っているところなどを書き、主治医に見てもらうというのがいいと思う。

・学校医の先生は小児科の先生が多いので、学校医の先生に見ていただき、精神科あるいはこころの問題に詳しい小児科の先生に受診すべきかどうかを考えてもらうのがいいかと思う。

1 不登校に関すること⑤

○ きょうだいへの支援について

- ・不登校のきょうだいを持つ子どもの支援は？
- ・兄・姉が不登校傾向にあると、弟・妹も不登校になりやすい？

杉本
先生

・不登校のきょうだいがいるお子さんの家で、家庭のサポート力が不足しているケースというのが結構あるので、お父さんお母さんもサポートしてあげなくてはいけないという状況になる場合は時々ある。

・具体的なサポート内容については、ケースバイケースなので、必要に応じてということになる。

・体感的に、きょうだいの上の子どもが不登校傾向にあると下の子どもも不登校になりやすいというのはありそうだなと感じるが、明確に示したデータは見たことがない。

2 暴力に関すること①

○ 本人への支援

- ・衝動性が高く、気持ちを抑えられない。暴力以外で気持ちを落ち着かせる方法は？
- ・やめるよう言い聞かせても、繰り返してしまう場合はどうするとよい？

江川先生

【参考】第3回事例検討会 講義資料

- ・衝動性が高いというのは、感情や欲望の中枢である大脳辺縁系（いわゆる本能をつかさどる脳部位で爬虫類脳とも言われる）の働きが相対的に強くて、前頭葉（理性など高次機能をつかさどる脳部位）のつながりが弱いと言われている。このような知識を前提とすることは結構重要で、自分の頭の中で起こっているのかをイメージすることはすごく大切なこと。
- ・小学生でも理解できるように視覚的に伝えることが大切。
- ・6秒ルールでも、なぜ6秒なのかを思い浮かべるだけでも結構時間が経つ。怒りの対象を考えながら6秒やっていたら意味がない。
- ・代替案についても、本人が落ち着いている時に本人も交えて話し合うことが重要。人にあたるよりも物にあたるほうがましとか、壊れる物よりも壊れない物にあたるほうがましなどということを検討して、これならいけそうというものを設定し、次回試してみるということを繰り返す。あらかじめ本人と周囲で意思統一しておくことが大切。
- ・合意が重要というのはよく言われることだが、やるべきことを思い出すためにカードを作ってラミネートして持っておくとか、フローチャートとかを使うのが重要で、そういったものを持っておく。手順を落ち着いてるときから決めておくことが重要。
- ・それだけで収まらない場合には薬の併用も検討する。

2 暴力に関すること①

○ 本人への支援

- ・衝動性が高く、気持ちを抑えられない。暴力以外で気持ちを落ち着かせる方法は？
- ・やめるよう言い聞かせても、繰り返してしまう場合はどうするとよい？

江川先生

- ・やってはいけないことを頭では理解しているのに、繰り返しやってしまうというのは想像性の問題などがあって、実年齢は関係なく、それを抑えるに十分な発達段階に至ってないということ。全てのケースで可能なわけではないが、基本的にはそれをやっつまり状況から離れるという方法しかない。

2 暴力に関すること②

○ パニックを起こした時の対応

- ・力で抑えることができない時は、どう対応したらよい？
- ・周りの子どもたちが怪我をしないようにするには、どう対応したらよい？
- ・学校内で暴力が起こった時の学校の対応は？

江川先生

- ・すでにパニック状態である子どもに対して、落ち着くようになだめて説得するというのはほぼ不可能と正しい。この状態では、全ての刺激は悪意のある刺激というふうには判断するようになってしまっているので、危険がないか周りを見守りながら収まるのを待つしかない。
- ・大脳辺縁系が暴走している状態なので、なかなか人の言葉が届かない。生きるか死ぬかみたいな状態、実際はそうではないのにそのように感じられるというエラーが起こってると思うのがよい。そういう状態の時には、fight-or-flight（闘争・逃走）反応というが、戦うのと逃げるという状態で、さらにどうにもならないと諦めの状態になるとフリーズ、3つのFというが、Fight・Flight・Freeze。力で押さえつけられて落ち着くのはFreeze状態ということ。
- ・そういう状況になる前にどうするかという意思統一をしておくことが大事。この状態にはこうすると決めておく。パニックになった時には例えば「深呼吸しよう」と伝えるよと前もって言うておく、聞き入れる可能性は多少なりとも上がると考えている。
- ・下準備や本人同意なしに、そういうふうにしても単なる悪意のある刺激としか受け取らないので、上手くないか。

杉本先生	<ul style="list-style-type: none"> ・クールダウンと振り返りをぜひやって欲しい。クールダウンは落ち着くまでそっとしておいてあげるということ。そして落ち着いたら振り返りをするということ。 ・パニックになった原因を子どもと話して振り返る。また、次に似たような状況になった時にどうしたらいいかという対策を話し合う。 ・クールダウンと振り返り、これを繰り返していくことで、徐々に本人が痛癢を起こさなくて、いろんな物事に対応できるようになっていく。これは半年とか1年とか、ずっと丁寧にやり続けているとちょっと変わってくるというレベルのこと。
------	---

2 暴力に関すること③

○ 医療機関への受診について

- ・どの程度だと入院治療が検討されるのか？

江川先生	<ul style="list-style-type: none"> ・精神科入院の考え方として、いわゆる開放病棟で入院治療が効果的であるというのは本人に治療意欲がある場合で、例えば認知行動療法などが主体的にできる人なので、子どもにはなかなか難しい。 ・本人に治療の意思がないにも関わらず、認知や行動の修正が必要な子ども、緊急での入院でないと危険だという場合、本人は入院の必要性を理解できず入院を望まないのも、閉鎖病棟に医療保護入院が必要ということになる。 ・早急に入院が必要なものは命に関わるような自傷他害の問題がある、家庭における虐待的な対応も含めて必要な状態といえる。
杉本先生	<ul style="list-style-type: none"> ・まず外来通院で治療をし、効果がなければ入院へ、という場合が多い。

2 暴力に関すること④

○ 関係機関との連携

- ・学校、放課後等デイサービス、放課後児童クラブ等での対応をどのように連携すると良い？

杉本先生	<ul style="list-style-type: none"> ・本人、学校、ご家族、福祉、医療といった本人を取り巻く関係機関みんなで共通理解を図って、共通目標を置くというのが基本になる。 ・連携の仕方は、電話、手紙でのやりとり、会議をなどいろいろな方法があると思うので、その時に可能な方法でよいと思う。必要以上に、リソースを割いてしまうと、すべてのケースに対応できなくなってしまうので、必要な時には大きなこと(会議など)をする日、それほどでもない時には小さなやりとりでどんどん済ませていく、という感じになるのかなと思う。
------	--

2 暴力に関すること⑤

○ 家庭への対応

- ・子どもに対して「～であるべき」といったプレッシャーが強い保護者に、どうアプローチするとよい？
- ・家内金銭盗がある場合はどこで支援してもらえる？

江川先生	<ul style="list-style-type: none"> ・家内金銭盗の背景にもいろいろと発達障害や虐待などの問題がある。通常の外来でもフォローしているが、当然司法の問題になると警察、弁護士とも連携し対応することもある。 ・例えば ASD の子どもでは想像力が欠如している場合が多いので、家内盗であってもこれは犯罪だから警察に捕まるよと脅してもほとんど内容が頭に入っていない。そういう場合には、ご家族等に警察と事前打合わせした上で、実際、警察に行ってもらって、ちょっと説教をもらうということもあって、これが効果的である場合がある。
杉本先生	<ul style="list-style-type: none"> ・悪い方法、犯罪で欲しい物を手に入れるのはすごく簡単で早い。貯金して買うといった正しい方法で欲しい物を手に入れようとする10倍ぐらい長い時間がかかる。早く手に入れる方へ慣れてしまうと正しい方法で手に入れることが全然できなくなってしまう。今のうちから正しい方法に慣れておかないと、悪い方法でしか欲しい物を手に入れられないようになってしまう。大人になったらもう犯罪者になってしまうということを教えたいと思う。

3 自傷行為に関すること①

○ 自傷行為について

- ・ここ数年で手軽な手段となってきたような印象があるが先生方の感覚ではどういう印象？
- ・一回やるとなかなかやめられなくなると思うが、止めることができた人はどのような気持ちの変化を伴っている？
- ・自己治療として生きたいと踏ん張っているのでは？
- ・抜毛した毛や皮膚・かさぶた・爪を食べる癖がある場合リストカットなどにつながる可能性は？

杉本
先生

- ・時代の変化で福祉の行き届いた国になってきたことによって、社会のひずみの出方が変わってきているのか、昔だったら貧困で食べるのにも困るというような時であればそういう出方はしないが今は豊かだからそういう出方になっているのかなと思う。
- ・自傷行為をやっている人たちは大切に扱われずに育ってきたという人が多く、ある日いきなりあなたは大事な人なんですよと言われても、嘘だと思ってしまう。
- ・どうしたらそれが変わるかという、一貫して継続して、あなたは大切な人ですよ、あなた自身も自分のこと大切にしてください、と言われ続けていくということ。特に親からそう言われていくということ。そうするとだんだん、あれ、本当に私って大事な人なのか、大切にしていえるのかなというふうに認識が変わってくる。それを継続することが大事。
- ・自分を大切にできない子どもの親も、自分大切にできない人であることが多い。だからその親の問題からアプローチしていく必要があるケースもある。
- ・抜毛や爪かみというのは、リストカットと少し違うが、根底には同じ問題が共通している場合もある。自閉スペクトラム症の傾向が少しありそうに見えるが、同じ問題が根底に流れている場合は同じ対応が有効な場合がある。

3 自傷行為に関すること②

○ 本人への対応①

- ・隠れて自傷行為(リストカットなど)をしている場合、傷を見つけたらどう対応したら良い？
- ・自傷行為に代わる感情表出の方法やストレスをコントロールする力を身に着けるためには、どういう手立てが必要？
- ・ネット上で同じような境遇の人と知り合い、親しくなった様子が見られる際に、留意すべき点や対応は？

杉本
先生

【参考】第4回事例検討会 講義資料

- ・自傷行為を見つけたときはまず話を聞くということ。あとは背景とトリガーを特定していく。それからセーフティネットを作る。
- ・死にたい気持ちというのは、何か出来事があるとガーッと高まる時もあるし、そうでもない時もある。今高まっているという時に周りの人が気づけるということが大事。
- ・つい親御さん悲しむよとか、そういうことやっちゃいけないよ、死にたいなんて言わないでとか言いたくなるが、それを言うと、死にたい気持ちはあるけどそれ言うとお母さん悲しむんだ、じゃあ今死にたい気持ちがすごく強まっているけど言わないようにしようということになってしまって、本当に死んでしまう。
- ・死にたい気持ちが高まっている時には、「危ないことする前に誰かに言ってね」といつも言うようにする、それがセーフティネットになる。
- ・SNSの問題について、リストカットしている子からすると、クラスの子よりもSNSでの“病み”境界の人たちとの話が一番合う、リアルに悩みが共通している人たちにそこで初めて出会える。だから、リアルの世界でも大人、身近な学校の先生とか話を聞いてくれる人がいるということがすごく大事。リアルに話を聞いてくれる人がいることによってSNSから少し距離を置けるようになる。
- ・リストカットや希死念慮の問題は、SNSの子どもたちだけで解決できる問題ではないので、SNSの中でそういうのを見つけたら大人に誰かに言ってねということを常日頃から伝えておくことが大事。

江川
先生

- ・SNS 上での人との交流については、ポジティブな面も当然あるので否定から入らないことも大切。大きなメリットもある反面、デメリットもあることだけはわかっておいてねと。基本的にはネットリテラシーの考え方にその要素が詰まっていると思う。

3 自傷行為に関すること③

○ 医療機関への受診について

- ・家で治療で済むケースと受診した方がいいケースは、どこで見分ける？
- ・自傷行為を行った人にとって、受診はどのような体験となる？

杉本先生

・重いケースほどより専門的な医療機関や、専門的な機関につながっていくというようにピラミッド状になっていくと思う。学校だけでダメだったら、スクールカウンセラーに相談してみて、それでもダメだったら病院行ってみよう、最初の病院でダメだったらより専門的な病院行ってみようというように、ピラミッドの上の方にだんだん進んでいくというイメージ。

江川先生

・自傷行為で受診となると、中にはパーソナリティの問題じゃないかなど冷たい対応になって、いわゆるその医療トラウマを植えつけられる人も結構いるので、そういう場合にはあの先生はよくわかってないから気にしなくていいと周りがフォローしてあげるのがよい。

杉本先生

・1つの医療機関だけであきらめず、ドクターショッピングになりすぎてもよくないが、懲りずに違う病院やクリニックに行ってみる。1か所目はダメだったけど2か所目でうまくいったということもある。

3 自傷行為に関すること④

○ 周囲への対応

- ・クラスメイトへの対応は、どのようなことがある？
- ・子は大切に扱われなかったと思っているが、親は良かれと思ってやっている場合など、子と親の認識のずれに対するアプローチは？

杉本先生

・クラスメイトがそういうことしているとすると少なからずショックを受ける人がいたり、自分もしていたり、親が自傷する人でトラウマを持っていたりする人もいるので、そうするとフラッシュバックになってしまうということもあるので、ケースに応じて対応するということになるかと思う。クラス全体に何かしておかなければならないことなく、問題が出てきた時に、都度対応するということになると思う。
・親子の認識のずれを修正するのは専門的な対応が必要。もちろん力量があって学校でそういうことができる先生はしていただいてよいが、やはり専門の機関に行き、かなり長い時間かけて修正されていくもの。トリガーはすぐに避けられるが、背景は修正していくのにすごく時間かかる。その背景に関わる問題だと思う。

3 自傷行為に関すること⑤

○ その他

- ・発達障害と自傷行為の関連について。愛着障害と自傷行為の関連と違いはあるか？それぞれ相関はある？
- ・トラウマ治療について

杉本先生

・発達障害、愛着障害と自傷行為、これは結構関連がある。この辺りについては、杉山登志郎先生の御著書で非常にわかりやすいものがあるからぜひ読んでいただきたい。
・トラウマ治療について、激しいトラウマ症状を出す人が多いが、薬物療法がほとんど効かないので、専門的な心理療法が必要になってくるので、そういうことができる所を受診する。

4 その他①

- ・子どものメンタルケアは、親のメンタルや状況が大きく関わってくるが、親に対するアプローチはどのような形で考えている？
- ・不登校と自傷行為は女子児童生徒の割合が多い気がする。発達の課題などと関係があるか？母子関係（女性同士）の難しさなどと関係があるか？
- ・ゲームやネットに依存して、他のことに関心が向かない子どもへの支援は？

江川先生

・当然我々も親も子どももどういう背景を持っているか、どういう発達歴があるかというのは確認することは重要である。
・女子のコミュニケーションレベルと男子のコミュニケーションレベルとは全く違うので、小学校高学年ぐらいになってくると、少しASD特性があるような人はかなりついていけなくなって、疎外感を感じることが多いのではないかと思う。

杉本先生

・ゲームやネットというのはすごく報酬系を刺激してくれるもの。リアルの世界に帰ってくると何もいいことがない、褒めてもらえることもないということになると、ゲームの世界で生きるというふうになってしまう。だからリアルの世界でもいいことがあるよというふうにしていく。ゲーム大好きでいいが、リアルも悪くないよねというくらいのバランスになるといいのかなと思う。バランスが大事。

江川 先生	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな楽しみがある中でゲームやネットがあるのはいいけど、そればかりやっていると脳の報酬系が慣れて活性しなくなる。多種多様なことを楽しむ中の一つとしてゲームをやると長く楽しめるよ、と伝えている。
----------	---

4 その他②

- ・「学校は毎日行って当たり前」の意識が強すぎるために、学校を欠席してしまったことに負い目を感じてしまうような真面目な子どもは悩みます。以前に比べ、大人は休職や転職のハードルが下がっているが、子どもが学校を休むことは以前として高いまま。医療従事者として、どのように考えるか？

江川 先生	<ul style="list-style-type: none"> ・著名な児童精神科医で子どもにも有給休暇を与えるべきだと言っている人はいる。内申書に影響しない程度の欠席日数ということになるか。10日ぐらいあるといいか。 ・私の患者さんでも両親と相談して、月に1回ぐらいは体調不良でなくても、休める日を作りましようとしている。その方が長い目で見ると学校に行けている期間が長いとか、不登校傾向だった人が学校に行けているというケースは多く経験している。
----------	--

4 その他③

- ・カウンセリングを進めても受けたがらない子どもには、どのような働きかけからはじめるとよい？
- ・手軽にできる心理療法(絵を描く、ゲームなど)について教えてもらいたい。
- ・精神医学専門家から、小学校教員と小学生の保護者に最近とくに伝えたいメッセージがあれば、聞きたい。

江川 先生	<ul style="list-style-type: none"> ・カウンセリングというのは受け身の状態では意味がないと思うので、促して行ってその気になったら始めるというスタンスでいいのではないかと思う。
杉本 先生	<ul style="list-style-type: none"> ・過去の経験である先生の所に行ったけど嫌だったということがあれば、行き先を変えてみることも一つの手かなと思う。
江川 先生	<ul style="list-style-type: none"> ・絵を書くとかゲームを一緒にやって関係性を作ってこの人だったらいろんなことを話してもいいかな、相談してもいいかなと思わせることは十分大きな目的になると思う。特に発達障害に必要なスキルは、自分ができること・できないことを把握した上で誰かに相談するスキルと言われているので、そこにつなげられるように関係性を構築するという意味では重要かと思う。
江川 先生	<ul style="list-style-type: none"> ・感情をコントロールする方法や自律スキルとか大人になってからも生きていくのに必要なスキル、一生通じて役に立つので学校で教えるのがいいと思う。例えばお金に関する知識など直接的に役に立つスキルについて教えてもいいと思う。
杉本 先生	<ul style="list-style-type: none"> ・性教育の内容も適宜見直してもらいたい。問題行動になってしまうケースもある。
江川 先生	<ul style="list-style-type: none"> ・そういうのを一般知識として伝えることはすごく大事なことだと思う。問題のある人だけではなくクラス全員に対して伝えるのがよい。